
＜風を持つ少年＞

黒ピクミン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

<風を持つ少年>

【Nコード】

N1059R

【作者名】

黒ピクミン

【あらすじ】

7月14日夏休みまであと一週間のところで東京で奇妙な災害が起きた、白く光る竜巻と黒い竜巻がぶつかり合い、すぐく大規模なものだ。死者100人以上、重傷者多数その中で一命を取り戻した人たちが、みんなが同じことを言った。

「飛行機よりでかい鳥を見た」

テレビを見た人はそんなものがあるわけがないと思い、信じなかった。

ある日僕、にしのふうた西野風太の父は、災害現場を見に行きその帰りにお

土産を持って帰ってきた。お土産は緑色で五百円ぐらいの綺麗な球体。久しぶりのお土産にちよつとうれしかった。でも・・・この球体が僕の運命を大きく変える

第一話 過去と今と鏡（前書き）

なんか長くなっちゃて読みにくいかもしれないですけど読んでください

あと感想もください お願いします

第一話 過去と今と鏡

7月14日夏休みまであと一週間のころで東京で奇妙な災害が起きた、白く光る竜巻と黒い竜巻がぶつかり合い、すぐ大規模なものだ。死者100人以上、重傷者多数その中で一命を取り戻した人たち、みんなが同じことを言った。

「飛行機よりでかい鳥を見た」

テレビを見た人はそんなものがあるわけがないと思い、信じなかった。

ある日僕、西野風太にしのかうたの父は、災害現場を見に行きその帰りにお土産を持って帰ってきた。お土産は緑色で五百円ぐらいの綺麗な球体。久しぶりのお土産にちよつとうれしかった。でも……この球体が僕の運命を大きく変える

{第一話}

「がちやがちや」

父さんが帰ってきた。

「はいま」

珍しく酔ってる。

いつも父さんは遺跡や災害現場などに行ったら一泊してまっすぐ帰ってくる、でも今日は、泊まらず酔って帰ってきた。

「どうしたの？早いじゃん！」

父さんは玄関に座り込んでる

「ちよつとね 向こうでねー大学時代の同級生にあったから飲んできた」

コップに水入れて渡したあげた。

「あ、ありがとう・・・そうだ！その同級生から風太にお土産をもらったんだ。」お土産なんて久ひさしぶりだなーどんなだろう

「はい」

手に渡してくれたものと見ると、緑色で500円ぐらいの大きさできれいな球体

「何これ？ビー玉？」

聞くと父さんはちよつと困った顔して

「よくわからないんだ、なんか風太に渡してくれて・・・ごめんねそれじゃもう寝るね」

「うん、お休み」

翌日

「やっぱ日曜の朝は眠いなー」

なんて言いながら布団から出た。

昨日貰った球は落ちないように棚の上に工夫して乗せた。

「風太ー飯ー！！」

いつもは寝坊している兄ちゃんが起こしに来た。

二人で階段を下りてると昔、幼馴染とここで遊んだこと思い出した。幼馴染の風吹は母さんどうしで仲が良くて生まれた時から一緒だった。

だけど今はもう・・・

~~~~~小6夏、夏休みも終わるって言うのに宿題が終わってないから助けもとめて、

風吹の家に行った。風吹は優しくて何も言わず家に入れてくれた。

風吹のおかげでやっと宿題が2時間ぐらいで終わった。

風吹は飲み物を出してくれるって言って台所にむかった

〽5分後〽

〽10分後〽

〽30分後〽

・・・遅い！何しているのかと思って俺も台所にむかった。

「オーイふぶきまだー」

ちよっと大きめの声で呼んでみた。

「・・・・・・・・」

返事がないどころ行ったんだろうそう思ってケータイを鳴らしてみた  
「ブーンブーンー」ケータイはある玄関に行っても靴はあるどう  
したんだろうと思って一旦冷静に考えてみた、すると「ドンドドン」  
と大きな音がした、台所の方だ。

台所に来た。

・・・・・・・・けど誰もいない

「ただいま」

風吹の母さん（ひーちゃん）が帰ってきた。

俺は泣きながらひーちゃんにかけよった。

「あら！来てたんだ、でも風吹は？」

俺はわかったことをひーちゃんに話した。

「んわかったから、今日かえりな」

そう言われ帰った。でもやっぱ風吹が帰ってくるか心配で連絡をず  
っと待ってた。

次の日も次の日〽〽

〽そして2年たって今にいたる。ひーちゃんは具合悪くなって空  
気の良いところ引っ越した。

Ⅱ朝食もすみ部屋に戻ろうとしたら、母さんに荷物を渡された。

差出人は雪野 瞳（せつのひとみ）そう ひーちゃんだ。急いで部屋に戻り、封を開  
けた中には手紙と羽の形のネックレスが入ってた。

ネックレスには羽の形やつが付いていて、羽の真ん中には穴が空い  
ている。手紙にかいてあったのは、  
風太くんへ朝にきずいたら玄

関の前に袋があつて「風太にところに届けて」ってふぶきからきたの。よかったよ！生きてたよ」PS、それと風太君にメッセージだつて、「風太へ俺に会いたかったらネックレスを付けてみろ」だつて」

まよわずネックレスを首にかけた。

「そうだそれでい……」

と部屋にどっか、から聴こえた。

「わぁ！」

びっくりして棚に背中をぶつかった。

「痛てて！」

棚にぶつかつて昨日貰つた球が落ちて頭にぶつかった。

球が頭に当たつて下に落ちたとき羽のが白く光つて球が吸い込まれて消えた。

「ケイヤクカンリヨウシュツパツツシマス」

「え！なんて？どこに？」

すると鏡に吸い込まれ始めた。

「な、なんだこれ……………うわーわわわわわあああああああああああああああ  
ああああああ」

一回、冷静に考えて見るこんなのありえないきつとゆめだ！  
と思つて目を閉じた。

……………周りは静かだ！ほら夢だよかつた

……………ゆっくり目を開けた。

「どこだよ、ここ」

気がつくと僕は草原上に寝ていた。

続く





## 第一話 過去と今と鏡（後書き）

感想ください

## 〔第二話〕 亀と剣と風（前書き）

主人公 西野風太 「にしのふうた」 は、父親に渡した球体と幼馴染みから送られてきたネックレスのせいで知らない場所に連れて来られてしまった。……………

## 〔第二話〕 亀と剣と風

### 〔第二話〕

「ここは？」

見回してもなんもない

「俺は今部屋にいたよな？」

・ ・ ・ ・ ・

「うん。いた」

わけのわからないまま自問自答。

寝たくなるくらいの静かな草原聞こえるのは、風になびく草の音ぐらい

「ああーなんだよここ」 ゆっくり目を閉じた。

・ ・ ・ ・ ・

　　1時間後

「ゴゴゴゴゴ」

強い揺れを感じる

「なっなんだああ！」

あわてて飛び起きた

「じっじしん!？」

「ドーンドーン」

後ろでなにかの爆発音がした。

そくぎに振り向くとそこには大きな木がこっちに歩いてくる。

・ ・ ・ ・ ・ いや ・ ・ ・ ・ ・ 木じゃない ・ ・ ・ ・ ・ 木は歩きません ・ ・ ・ ・ ・

・ ・ ・ 何とすることでしょう「ドリームハウス風に」それは、大きな  
甲羅が苔におおわれた……………

「かめ？」

「でかあああー!!」

亀まで距離約50m、今見えてる亀の高さ約1m・・・単純に考えてめっちゃでかい。

その亀がなんと自分のほうに歩いてくる。これは逃げるしかないでしょう。

「うわあああああああああ」

夢中で逃げた……………10分ぐらい逃げただろうか。

疲れた。人間はまず、10分ちかく全力疾走したら疲れるのは、当たり前だ。……………

「こっ…こ……………こっちに…」

突然謎の声が聞こえた。

「え!……………なに?」

聞こえたのは、幻聴だったのかな?

「だれか……………たす……………けて…」

「!!」

やはり幻聴ではなかったようだ

「助けなきゃ!!」

どこに行けばわかんないのに、馬鹿な俺はむしゃくしゃに走りだした

〜10分後〜

「洞穴?なんだあれ神殿?」

「はやくう…助け……………て…」

山を真っ二つに切ったみたいに綺麗な壁に洞穴のような神殿、見たいな穴があった。

「ここかな?」

俺はそこに何かいるかもとか考えず入って行った。

洞穴で待っていたのは一人の少年……………と黒いマントを着た青年、顔はよくみえない青年は少年に持っていた杖を向けた。

「邪魔だ……………我々にはその風を操る剣、”風烈剣”が必要なんだ……………」

少年は後ろに剣をかばいながら青年に言った。

「おっお前らなんかに渡してたまるか！むっ村のみんな約束したんだ！」

「黙れ！……もういいここで消えてもらう」

青年はそう言うと言っていた杖から風の刃がでてきて少年のほうにとんでいった。

「あっあぶない！」

俺の足は考える前に動いていた、少年の体に飛びつき押していた。

……まさに危機一髪、紙一重で避けたが……

「カチッ」吹雪から貫ったネックレスの羽が風の刃に切れて剣の方に吹っ飛んだ

「くっ……邪魔が入ったか……まあいい邪魔者ごと消してやる！！」

今度は大きいのか、ためが長い

「まっまたあれがくるのか」

少年は俺が思いつきし押したせいで伸びてる。

「消えろ！」

俺は死を覚悟した。（ひーちゃんごめん……俺風吹を……）  
………キン！

痛くない！？顔を上げると後ろにあったはずの剣が……

「なぜだ……なぜ風の国ではないそいつを！！」

俺にはなにがなんだかわかんなかった。

すると目の前にネックレスの羽が、そしてそこから

「選ばれし少年よ鳳凰の力を使うがよい」

「え？」

手が不思議に伸びていたなぜかこの剣の使い方を頭に流れてくる、まるで最初っから知ってたみたいに俺は剣を片手にとった。

持ち手の上に穴がある、ちょうど羽の形だ  
はめてみる

フアアアアア！！

風が俺の回りに渦巻いてる青年のマントがすごくなびいてる。

「こっこれが風烈剣の力かぁ……………欲しい……………欲しい……………」

青年の声が変わった……………まるで何かに操られてるかのようだ……………  
……………

続く

**〔第二話〕 亀と剣と風（後書き）**

作者「すみません話がへんで」



### 〔第三話〕 青年と闇と少年（前書き）

主人公 西野風太「にしのふうた」は、父親に渡した球体と幼馴染みから送られてきたネックレスのせいで知らない場所に、その後、洞穴に入ったら魔法使いみたいな青年に襲われてる少年がいた、そいつを助けて死を覚悟したとき……………

### 〔第三話〕 青年と闇と少年

#### 〔第三話〕

『欲しい…………欲しい…………』

明らかにさっきの青年ではない

「だっ誰だ!!」

俺は”風烈剣”を両手に持ち問い掛けた、すると青年は

『欲しい……………くれえ……………くれないなら……………』

マント影で見えなかった目の瞳が赤く見えた。様子がおかしい

「でてけ……………」

元の青年の声だ

『欲しい……………』

変わった……………へ?

「でてけ……………『欲しい……………』でてけ……………『……………』う

あああああ

いきなり青年が苦しみだした。

まるで何かと戦っているかのようにだった。

(どすっ!)

倒れた。

「へ? どーなってるの?」

もうーわけがわからない

『ちっ使えねーなせっかく、風の力を手に入れらるのに……………くそ  
!』

青年の変わった方の声だ!

「誰だ!」

倒れていてる青年の方から声が している、きみが悪い

『オレか俺は闇の国の者と言っておこう……………さすがにこの体じ

「やあ”風烈剣”には勝てねーな」  
そう言うのと青年の体から黒い煙り見たいのがスウーとぬけて消えていった。

戦いが終わった………とくに戦ってないけど  
剣の方は手から消え、また羽の形になってネックレスに戻った。  
「ん………」

少年が目をさました

「イテテテ、………！、けっ剣がない」  
少年キョロキョロし始めた。多分、俺は視界に入っていないだろう  
「ない！ない！………！」

あっ！目があった

「おっおまえ！もしかしてあいつらの仲間か？」  
落ちてた自分の剣を拾いこっちに向けてきた。

「まっ待ってくれ、あっあれをみろ！」  
慌てて青年のほうを指した。

「！………」

少年は驚いた顔をした

「これは………あなたが？」  
まっー自爆したみたいだから何とも言えないけど…

「まっまっーね」

「！………失礼ですけどあなたはどこの国に出身ですか？」  
なにを言ってるんだこの子は

「決まってるじゃん、日本だよニ・ホ・ン」

「へ？ニホン」

「うん日本………へ？」

「どこですか？そこ」

初めてきずいた………ここは日本どこかと思ってたけど………

「もしかして異世界の転生者のかたですか？」

よくわからない、何転生者って

「あゝ別になんでもないです」

君は何がしたいの？って言いたいけど、またよくわかんないこと質問されたら困るから

「たぶん……どこに行くところないなら私たちの村に来ませんか？」

村か……情報も必要だからね

「うん行くよ………んであの人？」

「連れて帰ります！」

「どうやって？」

「大丈夫です僕のは移動系も持ってますから、その人外まで運んで下さい。外で待ってます」

と言うと少年は外に走って行った

「あ………まって………」

行っちゃった。言われたとおり外に運ぶと、少年は待っていた。左手の甲に右手のせなんかしゃべってる

「我風に伝える者、我に鳳凰の力を与えたまえ！」

どっかできた言葉だな……少年に右手に緑色の球がでてきて

「え………それって父さんから貰ったやつと似てる」

と思わず声が出た

「………こい！レオン！」

少年はその球を真上になげた、すると緑色光、徐々に……

「犬？ちがう狼？もののけ姫？」

身長180cmぐらい狼が地面に下りてきた（スタっ！）

「ワオオオオオオオオン！」

「んん！！でかああ！」

あまりにもでかいから腰が抜けてしまった。

「こいつはレオンって言うんだ、小さい時から一緒に暮らしていて、一番の相棒です」

えーと相棒とか名前とか関係なくて………

「よいしょ、ん？大丈夫？」

少年は青年をレオンに乗せて、腰が抜けて立てない状態だった俺に

手をさしだしてくれた

「あっありがとう」

そして俺は少年ともにレオンに跨がった

「しっかりつかまっててくださいね」

「大丈夫これ？あと・・・」

「あー毛ですか？大丈夫ですよよっぽどのことないかぎり切れませんから」

「へえー頑丈なんだ、あと君の名前を聞きたいんだけど、俺は風太、西野風太よろしく！」

「僕はフブキⅡレイリス、フブキです」

……………そう言うとき今までうまく見えなかった、少年の顔が

「吹雪っ！！」

続く

**〔第三話〕 青年と闇と少年（後書き）**

コメントほしいです。

ぜひ

## 別と神と世界（前書き）

まじでつまらない話

みてくれてありがとうございます

## 別と神と世界

### 〔第四話〕

「吹雪！」

涙がでそうになった

「はい？どこかで会いましたけ？」

吹雪がこつちを不思議そうに見てる。

小さい時から付き合いだから忘れることもない

……………だからこの人は吹雪であって吹雪ではない…………

「あっ……うんゴメンなんでもない」

少年は俺が涙目になってることを聞かずそのままレオンに乗せてくれた。

いいやつだなこのフブキも

20分ぐらいたったかなだんだんと日が落ちてきた。

「やばいなぁーレオンもつとスピードを上げてくれ」

フブキはレオンになにかを伝えていた。

しばらくたって木に囲われている村見えてきた。まるで弥生時代にタイムスリップしたかのようだった

多分むらの見張りかな？後ろを向いたなにか叫んでる

「フブキとレオンが帰ってきたぞーおお！門を開けろー！」

すると門は橋をかけるみたいに上からゆっくり下りてきた。

……………「ねえ……………フブキくん？……………速度落とさないとブツカルヨ？」

そう明らかに橋の下りる速さとこの生き物の速さと橋が下りる速さには差がありすぎる

「ぶつかろううー！！」

その時目をつぶったが体で感じていたまだ10m以上ある高さをま



るで羽根が生えたかのように飛んだいたことを……………そして目の前が真っ暗になった……

（スタツ）「はあはあ今のは危なかつ……………あ　気絶してる」

「……………さ…ん……………風太さん……………風太さん!!」

「うわ!　ここは?」

「長老の部屋です。風太さんをここに連れていく前に気絶してしまつて」

（そりゃあんなむりされちゃ）

「ほっほっあんなことしゃびつくりするのも当たり前じゃよ」

「はいすみません」

どうやらフブキくんに笑いながら杖をむけてるじーさんが長老らしい

「ほおー　っで君が風太君じゃなどれどれその首にかけておる物を見せてくれないか?」

俺は無言で渡した。

知ってる? 俺は人見知りなんだよ、まあ命をかけて知らない人を助けたけど……………

「ほおーこれは・・・やはり」

と言つて懷から本をとりだし、ネックレスと本見比べ始めた。「やはり・・・風太君これを何して（なんして）手に入れたんじや?」

こう言われるのはだいたい予想がついてた、だからすべてを話すことに決めていた。二年前のことから……………

話し終わると今度はじーさんがこっち世界のことと風烈剣のことそれと……………

「世界を救ってくれ」と

……いやゝむりでしようが、誰が世界を救えって？RPGだったら迷わず「いいえ」を押すよ……………うん

とりあえず言われたことを自分なりにまとめてみた。まずこの世界ことなんだけど、じーさんが持っている本によると、俺がいた世界のあるところを分岐点としたいわゆる、『パラレルワールド』らしいこの世界には、『火』『水』『地』『風』『雷』の五神がいてそれぞれが調和しあっていた。

だが突然やって来た悪魔がそれをめっちゃくちゃにした……

彼らは『闇の国の者』と名のつた

彼らの能力は人に乗っ取ること、今回のあの青年もそうだ。

はなしは変わり、風烈剣は人と風の神とのつながりになるらしい、  
それでネックレスは風烈剣の鍵役割をしている……………

続く

## 別と神と世界（後書き）

にごやおでアメブロしています

みてね

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1059r/>

---

<風を持つ少年>

2011年11月15日01時10分発行